

インフォメーション

すべてのお申し込み・お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申し込みの際は、件名を各イベントタイトルとして、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

トークイベント

“わたくしごと”に潜む、社会を動かすチカラ ～ハジマルフクラムプロジェクト～

ゲスト 大人のための絵本のよみきかせやさん 菅原香さん
mon-stella(モンステラ) 白鳥颯也さん
ベガルタ仙台・市民後援会 事務局長 三船博庸さん

日 時：2月12日(日)午後2時～午後4時(開場：午後1時半)
内 容：自分の好きなことや、得意なことは、実は地域の課題解決に必要なチカラになる。落ち込んだとき、大好きな絵本の朗読に感動した経験から、「大人にこそ絵本を」と、イベントなどで「流し」の読み聞かせをする人、大好きな音楽で、同世代の悩みや課題を解決しようと活動するバンドマン、愛する地元サッカーチームを支える活動から、まちづくりへと活動を広げる人のお話をうかがいます。
会 場：仙台市市民活動サポートセンター
定 員：20名
参加費：無料
対 象：「地域のために何かしたいけれど、何からはじめていいかわからない」「自分の得意なことを地域のために活かしたい」などの思いを持つ人。絵本、音楽、スポーツが好きな人にもおすすめです。



まち歩き

仙台ちょつとまち歩き 市民活動の現場を巡る

～聞く・見る・気づくのまち歩き 市民活動おじゃまします！～

●まち歩きエリア：仙台市太白区長町エリア
●まち歩きコース：太白区中央市民センター → NPO法人おだの家 → 長町遊楽庵びすたへり
日 時：1月28日(土)午前10時～午後2時(受付開始：午前9時半)
集合場所：太白区中央市民センター(仙台市太白区長町5丁目3-2)
内 容：普段の生活では気付かず通り過ぎているかもしれない市民活動の現場を巡る、大人の社会見学です。現場を見るだけでなく、実際に活動者のお話も聞くことができます。
参加費：無料
※別途、びすたへり訪問時にワンドリンクを注文いただきます。
定 員：10名



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日：1月11日(水)・25日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ / 地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP] <http://www.sapo-sen.jp> [Blog] <http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter] @sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが仙台の市民団体を取材しに行きます！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>

情報ボランティア@仙台の学生記者がワクワクビトを取材しています！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年1月4日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 松村 翔子 黒川 夕紀
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.209

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

大人のための絵本のよみきかせやさん
すがわら かおり
菅原 香さん (41)

朗読の「流し」で、 人の背中を押す

「流し」と聞けば、普通は「歌」。しかし、仙台市の環境学習施設職員菅原香さんの場合、「絵本の読み聞かせ」です。キャスター付きの本棚を引きながら街を歩き、「絵本の読み聞かせはいかがですか？」と声を掛けては、快諾した人にその場で読んで聞かせます。風変わりな活動の原点は36歳の時、1冊の絵本との出会いでした。題名は「ぼくを探しに」。愛らしいキャラクターによる自分探しの物語に自分を重ね、「勇気づけられた」と言います。「あの1冊で私の人生が広がったように、絵本の力をもっと伝えたい」。東日本大震災で多くの人が不安を抱えた状況にも背中を押され、2011年秋に読み聞かせに挑戦。様々な人に会う中で、現在に至りました。1作当たり5～10分。聞いた人は「小さいころを思い出した」などと語り、一様に穏やかな表情を浮かべます。「絵本には人を笑顔にする力がある。読み聞かせを通じて誰かの背中をそっと押せたらうれしい」。菅原さんは人と絵本のつなぎ役として今日も街を流します。

取材・文 石田 優衣(宮城大学4年)

大人のための絵本のよみきかせやさん

facebook.com/kaoliving

読み聞かせは基本的に1対1。周囲を気にせず絵本の世界にじっくり浸ってもらうためです。流すエリアは主に仙台市中心部や津波被災地。相棒のキャスター付き本棚は特注品で、菅原さんチョイスの数十冊を積んでいます。披露作は聞く側が選ぶことも、菅原さんに任せることも可。読み聞かせのあとは、大きながま口袋に「お気持ち」をお願いします。青葉区の雑貨店で月1回、朗読会を開いているほか、古本市などにも参加。2月12日(日)にサポセンで主催するトークイベントにも登場します。

特集

NPOと行政が手を取り、

一度つまずいても立ち直ることが

できる社会を目指す

NPOと行政が手を取り、一度つまずいても立ち直ることができる社会を目指す

2016年厚生労働省が実施した全国調査によると、ホームレスの数は大幅な減少傾向にあります。しかし、仙台市のホームレスの数には、ここ数年顕著な減少傾向はみられません。様々な支援活動が行われているにも関わらず、大きな減少に結びついていない背景には、東日本大震災後、復興関連の仕事を求めて全国から人が流入してきたことにあります。ホームレスの自立支援を探ろうと、NPOと行政が協力して行う取り組みを紹介します。

当事者に
利用できる制度や
施設を知ってほしい



いとう たかし
主任 伊東 崇 さん

仙台市健康福祉局健康福祉部
保護自立支援課

当事者一人ひとりに合った支援をしたい



いまい せいじ
理事長 今井 誠二 さん



理事・
事務局長 あおき やすひろ
青木 康弘 さん



にった たかゆき
施設部長 新田 貴之 さん

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ

アンケート調査でホームレス現状を可視化

ホームレスの自立支援活動を行う、特定非営利活動法人仙台夜まわりグループ(以下、夜まわりグループ)は、月1回、市内の公共施設を会場にホームレス状態の人を対象にした、自立啓発セミナーを開催しています。セミナーでは、仙台市における自立支援制度やNPOによる支援活動の紹介、医師による医療相談、法律の専門家を招いての法的課題解決など、様々な内容を盛り込んでいます。

また、セミナーに集まった当事者に対し、生活困窮者の自立支援を行う仙台市健康福祉局健康福祉部保護自立支援課(以下、保護自立支援課)と共に、仙台市内のホームレスの実態を把握することを目的としたアンケート調査を実施。調査結果を今後の支援や政策づくりに活かそうと取り組んでいます。

それぞれの「支援」をつなぐ太いパイプづくり

自立啓発セミナーの始まりは、2003年。夜まわりグループは、自立促進のために当事者に紹介できる支援を伝えてきました。さらに、

保護自立支援課の呼びかけで月1回、「ホームレス自立支援連絡会議」を開催。行政、夜まわりグループなど支援活動を行うNPOが集い、情報交換を行ってきました。共通の課題は、東日本大震災以降、見慣れない当事者が増えたこと。生活している場所の多様化もすすみ、当事者がどこに居て、どんな支援を必要としているのか、実態の把握が困難になっていました。

「路上で命が失われるのを見過ごせない」と、2000年から活動続けてきた夜まわりグループの青木康弘さんは、震災後も地道にメンバーと夜のまちを歩きまわり、当事者の健康状態、安否の確認をしながら、食糧や必要な物資の提供をしてきました。保護自立支援課は新たな当事者に対し、市の支援制度や自立支援施設などのサービスについて、どのように周知すればよいか模索していました。

そこで夜まわりグループは、平成28年度協働事業提案制度に事業を提案。両者はこれまで以上に意見交換を重ね、ホームレスの現状を可視化し、必要な支援につなげるためのアンケートを作成しました。夜まわりグループの今井誠二さんは、「協働事業の内容を共に考え、



■連絡先

仙台市健康福祉局健康福祉部 保護自立支援課 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL 022-214-3155 FAX 022-214-8194
特定非営利活動法人仙台夜まわりグループ 〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代2-10-12
TEL/FAX 022-783-3123 Mail yomawari@medialogo.com

実施したことで、継続して連携する基盤ができた」と、成果を話します。保護自立支援課の伊東崇さんは「両方で調査の分析を重ね、現状に合った支援策や今後の政策立案に活かしたい」と、展望を話します。

誰にとっても生きやすい社会とは

2016年4月から9月までのアンケートを分析した結果、全国から復興関連の仕事を求め、仙台に流入してきた人たちが職を失い、ホームレス状態に陥っていることが明確になりました。また、細かく設定した設問からは、ホームレス状態に至る経緯や状況の多様さが明らかになりました。「当事者それぞれが抱える課題が浮き彫りになり、個別支援の必要性を感じる」と夜まわりグループの新田貴之さん。今後は個人カルテを作成し、一人ひとりに合った支援を行う予定です。さらに、市の自立支援制度についての知識が少ない当事者に対して、制度を紹介するリーフレットを協働で作成するアイデアも生まれました。今井さんは「目指すのは、一度つまずいても何度でもやり直せる社会。誰にとっても優しい社会」と話します。(取材・文 菅原一禎)

ここチェック

家で眠っている食べ物を、必要としている人に届けよう
「ふうどばんく東北 AGAIN」

売れ残り、規格外、賞味期限が近い、といった理由で、まだ食べられるのに廃棄されてしまう「食品ロス」。日本では年間632万トンとされています。一方で、ホームレス状態の人の他、生活に困窮し、食に困っている人達が多くいます。

ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)は、食品ロスを一般家庭や企業から譲り受け、必要としている人に無償で提供しています。食味期限が1ヶ月以上あり、未開封の食料の寄付を募集中。
TEL 070-6494-7044 Mail info@foodbank.or.jp HP http://www.foodbank.or.jp



▲食品は、点検・整理され、受益者に届けられます

仕事の悩み、一人で抱えていませんか？

労働者サークル「WorKafe(ワーカフェ)」は、働く人が集まって仕事や生活についての悩みを打ち明け、共有し、支え合える場です。月2回、主に週末に市民センターなどで活動しています。職場での人付き合い、働き方や離職に関すること、過重労働や残業代未払いなど、何でも自由に相談できます。必要であれば弁護士や労働組合への橋渡しもしています。

サークルの参加者は20～50代の社会人や、労働問題に関心のある大学生など様々です。代表の佐々井悠也さんは、自身の会社で労働組合を立ち上げた経験の持ち主。「身近に相談できる場として、困っている人の力になっていきたい」と、2014年2月から仙台でこの活動を始めました。

私も、11月13日(日)、仙台市市民活動サポートセンターで行われた“座談カフェ”に初参加しました。自然と仕事に悩んでいた頃の話ができ、皆さんうなずいて聞いてくれて、体験談なども話してくれました。その優しさに心が温まり、仲間がいることを嬉しく思いました。

気軽に話せる仲間がいれば、明日の仕事への活力になります。また、自分だけの悩みではないと知るとは、課題解決への一歩を踏み出すきっかけにもなります。

あなたの悩み、仲間に話してみませんか？



▲代表の佐々井さん(右手前)とWorKafeメンバー。皆さんの参加お待ちしております！

■連絡先

労働者サークルWorKafe(ワーカフェ)
E-Mail workafe219@yahoo.co.jp
HP http://workafe.nomaki.jp

お役立ち本

現役ママ10名による横から目線の育児本
2歳児サバイバルライフ
編著:2歳児の子育てを楽しむ本 制作委員会
発行:太白区育児サークル応援隊 たい子さん

2歳は、自立心が芽生え、自己主張も激しくなる年頃。本書では、子育て中のママたちのリアルな体験や、子育てに役立つ情報をユーモアたっぷりに紹介。太白区の子育てサークルや子育てに携わる人たちを応援する団体と、一般から募った委員が「悩めるママ達の力になりたい」と制作。子育て中の人、子どもに関わる活動や仕事をしている人にもおすすめです。



お役立ち本

地域ぐるみの除雪にご協力を！
仙台雪道おたすけ隊～参加団体募集～

本格的な降雪のシーズンです。仙台市では、冬道の安全な通行を確保するため、道路の除雪にご協力いただける団体を募集しています。市の認定を受けた団体は、雪かきスコップの貸出や、市民活動補償制度の対象になるなどの支援を受けることができます。町内会、PTA、商工会のほか、地域単位で任意に組織する団体でも申し込みができます。詳しくはお住まいの区・総合支所の道路担当課まで。 HP 「仙台雪道おたすけ隊」で検索

